令和2年版　高齢社会白書

　高齢社会白書が令和元年に続いて厚生労働省のサイトで概要版と全体版が掲示された。

まだ、英訳版はないので、比較的最近掲示されたことが伺われる。内容は令和元年版を踏襲している部分が多いが、『これから高齢者が増えて大変だ、大変だ』という論調はなくなり穏やかに年を取り、安心して暮らしている高齢者の割合が多いことが、統計数字とともに淡々と語られいる印象である。

　例の『2000万円足りない足りない』問題に官僚さんたちは懲りたのであろう。内容や分析が素晴らしいものであっても、マスメディアの取り上げられ方によっては、バッシングを浴びてしまう。大臣も『読んでわからなった』『読まなかった』『マスコミからの報道だけを頼りにした』とは言わず、『聞いていない』という。国民は政府に複数の選択肢をわかり易く提示するまでが官僚さんたちの仕事であるとすると、その役割は十分果たしているといえる内容でっても批判の矛先は書いた人たちにいってしまう。

　『働く期間を65歳まででなく、もっと伸ばしましょう』というお話は、例の『2000万円問題』の時と、同じである。しかし言い方は明らかに違ってきている。65歳以上も働いている人、75歳以上も働いている人の方が比較的健康で、認知症などにもなりにくいニュアンスで書かれている感じがする。